

株フクナガエンジニアリングとお客様をつなぐコミュニケーション誌

FECO NEWS

フェコニュース

2013. Spring vol.44

里山の風景 vol.4

菜の花の花言葉は、小さな幸せ。菜の花は塩に強いことから、東北では津波塩害農地復興のための菜の花プロジェクトも始まっています。強く明るく明日を生き抜くために。



いままなげ、CSR（企業の社会的責任）なのか。

創業以来、環境に関わる業務を推進するフクナガエンジニアリングでは、CSRの勉強を始めています。CSRと聞くと少し難しい気もしますが、企業活動のフィールドが世界に広がっている今、視点を広げ利益追求の先にあることを考え、実際に行動しなくてはいけないと思います。



「CSR」についてインタビュー

今回は、エートス法律事務所、弁護士・ニューヨーク州弁護士・檜山洋子さんと、CSRコンサルタントの藤近雅彦さんにお話を伺いました。檜山さんは、中小企業のCSRの取り組みを紹介する情報誌『グリーン通信』を発行されており、藤近さんは、CSR報告書制作や大手文具メーカーでの環境管理業務を経て、現在は神戸大学大学院でCSRについての研究もされています。



渡邊：企業というのは、利潤追求のイメージがありますが、なぜ、企業にとってCSRが必要だと

思われますか？



藤近：企業にとって利益をあげることは重要なテーマです。でも儲けるだけで良いのかという決断をすることであります。企業が存在する意義を考えると、経済的な主体としてだけではなく、社会的ななかでどんな役割を果たすかを考えることが重要です。たとえば環境保全や雇用維持、取引先との適正取引、あるいはコンプライアンスなど、企業には多くのことが期待されています。こうしたことに積極的に対応することによって、経営リスクを低減すると同時に、新たな事業機会につなげる。これがCSRに取り組み最大の理由だと考えています。



渡邊：フクナガではどのように考えればよいですか？



藤近：例えば、街なかで金属の再資源化事業を行っていることを

快く思わない住民の方もおられるかもしれませんが、そうしたなかで事業を続けるには、騒音を出さないこと、周辺の環境整備などが最低限のライセンスとなるでしょう。しかし、アクセスの良い立地を活かす社会全体の資源効率を高める仕事を行っていることは、地球環境が大きなテーマとなっている現在では企業としての強みにもなれます。



檜山：CSRは自主的な取り組みです。自分から進んで何かを行うことは、会社を元気にするために必要だと考えています。



渡邊：CSRの考え方は海外から入ってきたのでしょうか？



藤近：日本でもCSRが入ってくる以前から、社会の中で企業がどうあるべきかという考え方がありました。

例えば、近江商人の「三方よし」に示された「売り手よし、買い手よし、世間よし」。これは、お客様や自分達だけでなく、世間にプラスになるような取引をしないと商いは続かないということを言っています。こうした考え方は他にもありますが、現在のCSRは、組織と社会との間の対話を重要視している点が大きな違いだと言えるでしょう。



檜山：昔の考え方は、「ここで働くのであればこのような考え方で働くこと」というような企業の理念や家訓というイメージです。



渡邊：お二人の考えるCSRの本質とは何でしょうか？



檜山：究極は、従業員を育てるためにあると思います。ステークホルダーを意識する意味は、働く人が自信を持てる・サービスに誇りをもつ・従業員がいきいきできる・良いところで就職できたねと言われるようになること。このよう



なことで、会社が向上していくと思います。人を育てるためのCSRが最近の持論です。

藤近：重要な点はビジネスを通じて社会的な課題を解決する、ということ。経営戦略論で有名なハーバード大学のM・ポーター教授は、CSV (Creating Shared Value) という考え方を提唱しています。これは、社会と企業との共有価値を、ビジネスを通じて創造していくということ。事業によって社会が抱える課題の解決に貢献しつつ、利益を出せば企業にとっても、社会にとっても有益です。そうすればその企業は社会にとってなくてはならない存在になります。CSRに取り組むことは利益に相反するコスト要因ではなく、新しい競争力の源になる可能性があるのです。



渡邊：CSRと聞くと難しいイメージがありますが、周りの人の

ことも考えるというシンプルなことから来ているのですか。それにしても、日本には昔からこのような考え方があったとは知りませんでした。大変勉強になりました。ありがとうございました。



CSRとは？

Corporate

Social

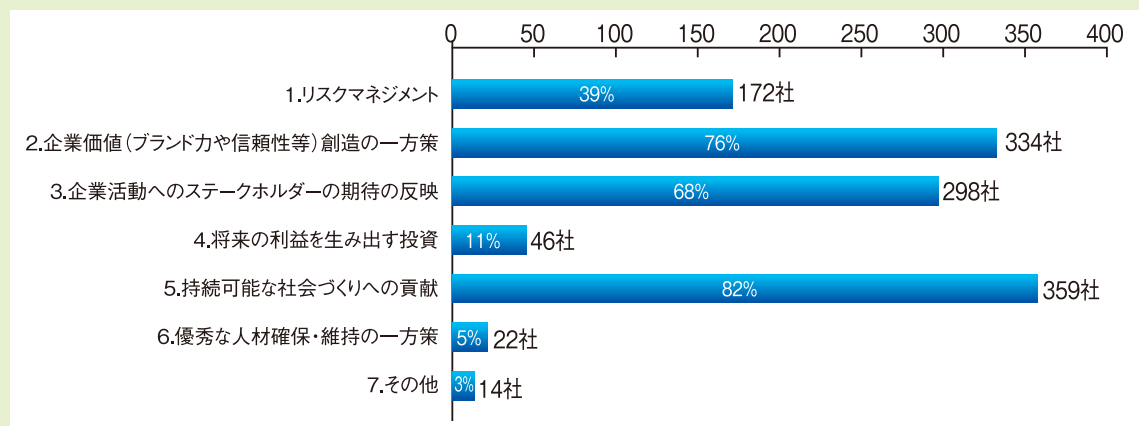
Responsibility

CSR(企業の社会的責任)という言葉は、1970年代から一般化されてきたそうです。公害問題の深刻化や石油ショック後の物価高騰による反企業ムードの高まりにより、企業の社会的責任=CSRという言葉が一般化しました。企業が事業を行う中、利益だけを追求するのではなく、顧客・地域社会など企業とその周りの様々な人との関係を重視しながら、社会全体の繁栄へ貢献する責任があるという考え方です。

(参考にしたURL: <http://csr100.jp/about/about.html>)

貴社にとってCSRはどのような意味を持っていますか。以下のうち、最も近いと思う考えを3つ以内で選んでください。

※棒グラフ内の%は、全回答企業数(437社)に対する回答社数の割合



(社団法人日本経済団体連合会「CSR(企業の社会的責任)に関するアンケート調査結果」2008.9.15より抜粋) (調査対象:日本経団連企業会員1,297社、回答社数:437社)

フクナガエンジニアリングの悩み

フクナガエンジニアリングでは、金属の再資源化事業を行っているため、ユンボやショベルなどの大型重機を使用します。そのため、騒音や振動で周辺住民の方々へご迷惑をおかけしている部分があり、まだまだ、この課題について考えていく必要があります。

私たちの理想は“フクナガがあって良かった”と思ってもらえる会社を作ることです。そうなるために取り組んでいることをいくつかご紹介いたします。

☆工場内で騒音・振動が起らないような仕組みづくり。
例えば振動の発生を防ぐために、フォークリフトの速度の規制や、路面の凹凸の舗装を行ったり、騒音を防ぐために出入口へ防音カーテンを設置したりしています。

☆その他・・・
工場周辺の清掃活動や、家庭から出る不要な金属類や家電の引き取りなど、一歩ずつ進めていっていますが、まだまだ十分ではありません。



理念にもある“地域社会との共存共栄”を達成するために、フクナガエンジニアリングが企業として何ができるかということを考えて、今後も会社全体で取り組んでいきます。

工場などをお持ちの各企業様で、周辺住民の方とのコミュニケーションについて、アドバイスやご意見を頂けるとありがたいです。



フクナガで働くスタッフをクローズアップ! フクナガの愉快的仲間たち

タイヤ事業部

山崎 正喜 (やまざき まさき)

●自分の性格をひとことで言うとは?

少し天然

●現在のマイブームは?

ダイエットの為に帰宅後ランニング

●仕事にかける意気込みを一言!

全ての事に対して初心を忘れず
全力投球!

フクナガのタイヤを全世界に
展開していく夢に向かって
頑張ります。



先輩社員からの一言

タイヤ事業部

柳ヶ瀬 雅俊 (やながせ まさとし)

「一緒に勉強していきましょう!僕は抜かれないように気合で頑張るで!!」



プルタブ・アルミ缶を 集めて車イスを贈ろう!

vol.4

① 第三期活動報告 期間:2012年度(2012年1月~2012年12月)

寄贈車いす台数	内 訳
15台	標準タイプ :9台 軽量タイプ :4台 子供用タイプ:2台
アルミ缶・プルタブ リサイクル数量	
21,889.4kg(内、寄付によるもの279.3kg)	
参加会員数 380団体	

② 担当者よりコメント



中村 良枝
(なかむらよしえ)

皆様の善意の輪が少しずつ広がっていることに感動と感謝です。いよいよ四期目に入ります。東日本の被災より早2年、人の心の温もりが日本を変えていくでしょう!微力ながら私たち事務局にできること、少しでもお役に立てる事は声に出して発信していきたいです。これからもどうぞ宜しくお願いいたします。



原田 奈美
(はらだ なみ)

皆様のご参加・ご協力により、第三期も無事終わることができました。ありがとうございます。第四期もよろしくお願いたします。

一般社団法人 みんなであつめる福祉にひろがる会

担当:中村・原田

〒536-0014大阪府城東区鳴野西5-13-30 TEL:06-6969-3735 FAX:06-6969-3611



ほっこりフクナガ写真館 vol.4

写真大募集!!



(宮城県名取市)
大森和也 様より

名取にあるショッピングモールより帰宅途中、そこから南に走る県道(農道?)で撮影しました。昨年夏に購入した白い車と、空の青・田んぼの緑のコントラストに感動。この場所より1キロ先、写真奥の方に、東部道路(有料道路)がありますが、そこは津波の影響がひどく、写真に写っているところは東部道路のおかげで津波を免れました。

前号のテーマ
「旅」の写真投稿を
ありがとうございます。



ご応募先着20名様にクオカード
500円分をプレゼント。
ご応募いただいた画像データ(jpeg)は、
この写真館のみに使用させていただきます。

今号のテーマは「ニッポンっていいな」

春らんまん。日本の春を感じられる景色やシーンを写真データでメール送信してください。日本っていいですね。たくさんの投稿をお待ちしています。なお公表してもよい写真をお送りくださいますようお願いいたします。

QRコード



応募先メールアドレス

feconews@ecosoft.co.jp

締め切り:2013年4月21日。

撮影日と場所、お名前そしてできれば
ひとことコメントをいただければ嬉しいです。

編集後記

最初にCSRという言葉に出会ったのは大学生の頃。当時は何も知らず、CSRは「環境や社会に対して良いことをすることで、やっている企業は良い企業」と言う風に考えていました。社会人になり、企業の社会的責任ということを考える機会が増え、CSRというのは、特別なことではなく、企業が社会の一員として果たさなければならぬことなのだと感じています。フクナガエンジニアリングとして、何ができるかをもっと全社的に考える必要があります。今回の号も作るにあたり、大変勉強になりました。ご意見、ご要望、アンケートもお待ちしております。また、次年度以降もどうぞよろしくお願い致します。



渡邊 花
(わたなべ あや)

※省エネ・省資源にともない、私たちはフェコニュースをPDF版にて配布しております。ご賛同いただける方は、アンケート用紙にメールアドレスをご記入ください。次回よりメールでお送りいたします。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



発行元:株式会社フクナガエンジニアリング
〒536-0014 大阪府大阪市城東区鳴野西5-13-30
tel: 06-6969-7657
fax: 06-6969-3633
e-mail: feconews@ecosoft.co.jp
URL: http://www.ecosoft.co.jp

